

って、よく歩けなかった子でした。先輩の先生が大変苦労して、右足をやや引きずりながらも、なんとか歩けるようになってきたんです。

いまでは、一、二キロメートルの歩行訓練でも元気に歩き通すようになりました。

教室でも、なにか要求したいことがあると、両手であの変なしぐさとともに「ノンフ」といいながら、私の周りを、ぐるぐる歩き回ります。それで要求にこたえてやると、キヤッキヤと喜ぶんです。

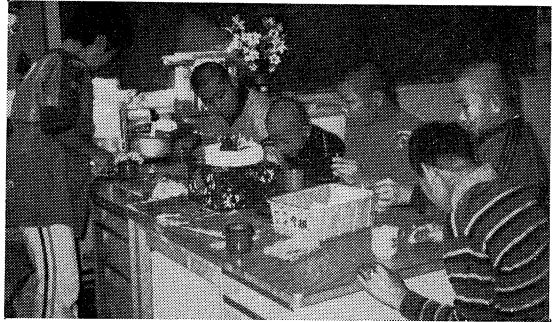
D 最近、朝の会などではきちんと整列しないで、やたらに会場内を歩きまわって仕方がないですよネ。どうしたらいいでしょう。

D ぼくは、昨年はじめてあの重度のクラスを持ったとき、大学で勉強してきたことがさっぱり役に立たないので困りましたよ。

E それで悩んでばかりいられないので、先生方に聞いたり、考えたりしました。結局、一人一人の子に必要な具体的な方法を見つけ出すのが現場では大切なんだなとやっと分かりかけてきました。事例を通して、子供に学ぶしかないと思うんです。毎日とその連続ですね。

E なにをどう指導したらよいか分からずに、現象だけに追われての指導ながらも、指導のやり方が分かりかけたときはうれいすね。

H そうなの。長い間かたくなに拒み



きょうは楽しい誕生日

精神薄弱児

との出会い

福島県立富岡養護学校

教諭 稲村 忠右衛門

私が新採用の教員として、県立富岡養護学校に赴任してきたのは、昭和五十四年の四月だった。そのころの学校は、アカマツ林に囲まれた三教室ほどの小さな校舎があるだけで、ほとんどの子供たちは、学校から三百メートルほど離れたところにある施設の一部を教室として、学校生活を送っていた。

養護教育に関しての知識も経験もなかった私にとって、子供たちとの学校生活は、試行錯誤の毎日だった。

A あきらめていたY君、卒業まぎわになってからは黙っていても保健室へ牛乳を取りに行くようになった。しかも、欠席者の分は事前に除いてあるんですが、それが分かるとその分をまた取りに行くようになっていったんです。

R 学校参観日や家庭訪問のときなど子供のごとで親さんと悩みを分かち合えたような場合、この教育に携わっている生きがいを感じますね。

司 貴重なお話をありがとうございます。まだまだ話はつきないと思いますが、今日はこれで。

らしてばかりいるのですか。」と尋ねた。

すると、「M君は教えますよ。」と施設の人に教えられた。私は、M君のちょっとした、教師への働きかけを見逃していたのである。話すこともできず、言葉も理解することのできない子供だからこそ、私はもっと注意深く子供を見る目を養わなければならないと痛感した。

そのようなことがあってから、M君の排泄を自立させようと思い、ポータブルトイレでの排泄指導を始めた。しかし、なかなか思うように指導ができず、もろしてしまうM君のパンツを洗いながら、「どうしてパンツ洗いまで……」とつぶやくことが多くなってきた。

叱りつけるときもあった。おとなしく気の弱いM君は泣いた。なんと愚かな教師だろう……。どうして、もっとやさしい気持ちを持ってないのだろう、どうして根気強くやれないのかと自責の念にかられた。

三期も終わろうとしているころだった。教室がいやに臭いので、また、もらしたと思ひ子供のおしりを見て回ったが、誰ひとりとしてもらしている子供はいなかった。教室の片隅に置いたポータブルトイレのふたを開けると大便があった。そのとき、M君がしたのかもしれないと思った。次の日、M君は、一人でポータブルトイレのふたを開けてトイレに座った。うれしかった。